

第2回 食に関する指導研修会

平成27年2月21日（土）に、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 食育調査官 濱田有紀先生をお招きし、「これからの学校の食育について」という演題で研修会を行いました。

愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会125名の会員が参加し、食育推進の必要性を再認識するとともに各関係機関との連携方法や最新情報等を学ぶ、有意義な勉強会となりました。



<会長あいさつ>



<濱田調査官 講演の様子>

1. 生涯にわたる食育の推進について

妊産婦（生まれる前）から高齢期までの各世代間をつなぐ間断ない食育の推進が必要である。小・中・高を見通した系統的な食育の推進や、朝食欠食や地場産物の活用などの数値目標を意識し、実生活に生かせる指導を進めてほしい。

2. 食に関する指導の充実

- ・日々の給食時間は、学級経営の大切な場であり、食に関する指導の土台である。年度当初の指導が特に重要である。栄養教諭は食の指導の重要性を学級担任に伝え、効果的な指導が継続的に進められるようコーディネート役を担うこと。
- ・食文化や地元の食材についてなどの資料提供を行うとともに、いろいろな学校で先生方と連携した指導を進める。
- ・食に関する指導においては、学校間で差のない取組が求められている。

3. 学校における食育の在り方

スーパー食育スクールでは、大学・企業等と連携した取組を行っている。関係機関それぞれが発信し、学校だけでなく地域全体に食育を広めていくことが重要。

参加者の声

- ・国の各省庁が食育に取り組んでいるが、どの省庁にも関連しているのが学校給食である。学校給食を活用した食育の充実のため、私たち一人ひとりが活動していくことが大切であると思った。
- ・校内の食育体制を整え、全職員の役割分担を明確にして組織的に取り組むことの大切さを感じた。
- ・食育推進の中核となる私たちにとって、食に関する指導と給食管理の両方が職務であることを認識し、しっかり取り組んでいくことが大事であると思う。



<調査官の資料より>